

大切な前置き

ここで紹介する基本とは、“咲牛印のカルトナーージュレシピ”の基本であり、一般的なカルトナーージュの基本とは異なる場合がございます。正式なカルトナーージュについては専門書やカルトナーージュ教室にて学ぶことをお勧めします。

基本の材料

I ベースとなる紙

●2mm 厚紙

箱モノの基本となる。

グレー台紙もあるが、白のほうが布の発色が良い。

●1mm 厚紙

パスケース等の小さな作品の土台、エンボスに使用

グレー台紙もあるが、白のほうが布の発色が良い。

●裏打紙（上質紙、ケント紙）

内側のパーツに使用することが多い

II 外を飾る布と紙

カルトナーージュ専用の布というものはなく、コットン、リネン、ウールなど好みの布を使用します。

ラミネート生地は木工用ボンドで接着出来ないため使用できません。

基本的に布を貼りますが、内側や箱の底裏に紙を使用する場合があります。

紙の種類、特徴

スキバル（革調の紙）、製本クロス、画用紙など

・スキバルは汚れが付きにくい、風合いがある。

・裏打ちの必要が無い。→手間が少ない。

・切りっぱなしで手軽に使用できる。→手間が少ない

厚み

咲牛印のレシピでは普通地を基本として設計しています。

厚みが異なる場合（特に厚地）は、厚みを考慮してアレンジしてください。

普通地とはきんちゃくのような材料で使うキャラクター生地のような厚みです。

注意

ローン、シーチングのような薄地、またガーゼのように目の粗い布地はボンドが表に出やすいのでホットメルト紙で裏打ちをして使用する。

色・柄

どんな色・柄でも作ることはできますが、失敗が目立ちやすい・目立ちにくいものがあります。

失敗が目立ちにくい色・柄

・白、ピンク、水色など淡色系
・小花柄のように細かくランダムに並んでいる柄



失敗が目立ちやすい色・柄

・黒、紺、こげ茶など濃色
ボンド染みが目立ちやすい
・チェック、ボーダー、ストライプ



ゆがみが目立ちやすい

III 接着材

●木工用ボンド

箱の組み立てのときは原液のまま使用。布を張るときは、伸ばしにくいときだけ少量の水を混ぜて使用する。水が多いとボンド染みが出来やすいので注意。意外と量を使うので大きいサイズの購入がオススメ。



●水張りテープ

主に箱の組み立て時の補強として使用。クラフト色もあるが、厚紙と同様白の方が布の発色がよい。

基本の道具

●カッター ●カッターマット

厚紙をカットする際に使用。カッターは柄が太いものが使いやすい。

●ハサミ

布をカットする際に使用。ボンドが付いた生地をカットすることもある。

●定規

金属製で滑り止めが付いているものが良い。

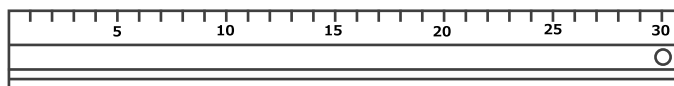
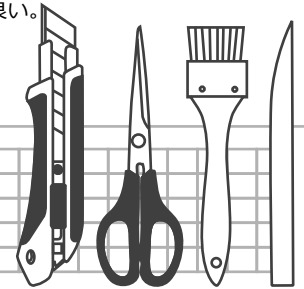
●ハケ

コシのあるものが良い。

豚毛、ナイロンなど。

●ヘラ

箱の内側や段差を押さえるときに使用。先が尖っていると使いやすい。粘土用でも可。



型紙・レシピの複製、売買、転売（オークション含む）は禁止です。型紙を使用して制作された作品の販売は、個人・商用を問わず許可しております。Web掲載、販売の際には「咲牛印」のレシピを使用した旨をご記載ください。ご理解くださいますようお願い致します。

咲牛印 - カルトナーージュとソーイングのレシピサイト ▶ <http://sakiushi.com>

基本の技法

I 厚紙の切り方

厚紙、裏打紙は設計図通りに正確にカットする。

①シャープペンで紙に書き写す。

同じ幅のパーツなどは並べて書いておくとカットの手間が減る。

②紙をカッターマットの上に置き、滑り止め定規をあててカットする。

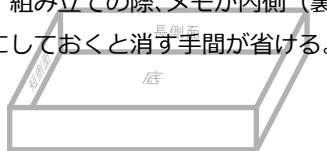
裏打紙は薄いので一回で切れるが、厚紙は1度に切ろうとするとキレイに切れないだけでなく怪我の元なので絶対に一度で切ろうとしないこと。

1回目はシャープペンで書いた線を軽くなぞるように軽く

2回目はその線を強めるくらいの気持ちで軽くカッターを入れる

3回目以降は力を入れすぎず切りきるまで何度もカッターを入れる。

カットした厚紙にはシャープペンでパーツ名をメモしておくとし組み立てのときに作業しやすい。組み立ての際、メモが内側（裏打ち紙で隠れる面）になるようにしておくとし消す手間が省ける。



II 布の切り方

レシピには必要サイズを記載しているが、実際にはそこまで正確にカットしておかなくても良い。レシピに書いてあるサイズより大きく、そして作業しやすい程度の大きさをあれば良い。厚紙や裏打紙を貼った後、その紙よりも周り1cm大きくカットする。

あらかじめ布をカットしておく場合には、マスキングテープにパーツ名を書き、それを貼っておくと貼るときに作業がしやすい。

III ボンドの扱い方

ボンドは容器に移して使用します。密閉容器を利用すると使用後フタをするだけで保管ができます。

【厚紙を組み立てるとき】

原液のまま、断面にボンドをつけて接着する。



【布を貼るとき】

基本は原液のまま接着する。伸ばしにくいときには少量の水を入れよく混ぜてから使用する。

IV 布の貼り方

布はアイロンをかけてゆがみをなくしておく。

殆どのシワは貼ればなくなりますが、シワはゆがみの元。



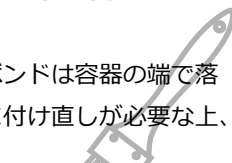
ボンドを塗るときのポイントは

とにかく**薄くまんべんなく！**

ボンドが多すぎるとボンド染み（濡れたような質感、乾いても消えない）になってしまう。

ボンドが塗れていない部分があると布が浮いてきてしまう。

ハケにボンドをたっぷりつけ、余分なボンドは容器の端で落とす。ハケの先に付けるだけだとこまめに付け直しが必要な上、乾きやすくハケが固まってしまう。



紙と布、どちらにボンドを塗っても問題ない場合は紙に塗った方が作業がしやすい。

布に塗る場合、ハケで伸ばしにくいので、トントンと付けるようにすると良い。

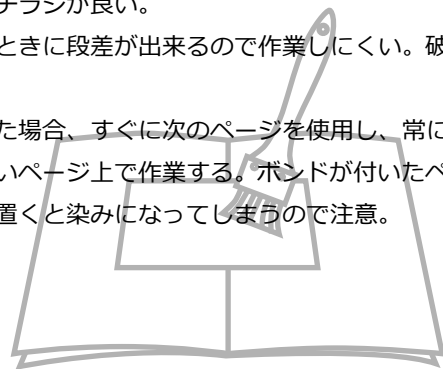
V 作品と机を汚さないために

ボンドを塗る際には机を汚さないよう不要な薄手の雑誌を敷き、そのうえで作業する。

新聞紙は少量のボンドが付いただけでも剥がれるため×。ツルっとした質感の雑誌やチラシが良い。

厚い雑誌だと開いたときに段差が出来るので作業しにくい。破って使用するならOK。

雑誌にボンドが付いた場合、すぐに次のページを使用し、常にボンドが付いていないページ上で作業する。ボンドが付いたページに作品やパーツを置くと染みになってしまうので注意。



VI 貼った布を剥がすには

ボンド染みが出来てしまったり、歪んでしまい貼り直したいときは、霧吹きで布を濡らし、そっと剥がします。

乾かしてからまた貼ります。

